

LIFE MANAGEMENT



ー クラブライフが心とからだと暮らしを変えるー

「元気なとやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。

日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

巻頭インタビュー Interview

富山県内で初めての民間フットサル場「VIDA富山」が射水市にオープンして1年が過ぎた。1人でも参加できる「個サル」が人気を集めなど、サッカー・フットサルファンから支持されて運営は順調だ。佐々木卓代表に富山でスポーツビジネスに挑戦する思いを聞いた。



フットサルで出会いと交流を演出

フットボールコミュニティ VIDA 佐々木 卓

■フットサル場をオープンするまでの経緯と現状を聞かせてほしい。

2002年の日韓W杯を見ながら、生活のかたわらにサッカーがあると楽しいな、面白いだろうなと思っていた。ずっとサッカーに携わっていたくて以前は指導者の道も考えていた。その後、仕事で培ったマーケティングの経験を生かして、ビジネスをつくる側からサッカーに関わりたいと思うようになった。富山に戻った03年にはフットサル場の経営を考えていた。

フットサル場に先駆けて06年9月にフットサル専門ショップ「VIDA」を開業し、08年5月にフットサル場をオープンさせた。ショップからスタートすることで顧客を事前に把握できるなどの相乗効果があった。おかげさまで2年目に入って個人会員は500人を超えて、月単位で黒字化することができた。

■個人で参加できる「個サル」のプログラムを積極的に展開し、フットサルを通じた交流を提案している。どんな考えがあるか。

「個サル」を週6日も行っているのは全国でもうちだけだろう。個人個人で集まった約20人が4チームに分かれてプレーする。今では多い日で40人以上の参加がある。みなさんが新しい出会いを楽しんでいて、そこで知り合った人たちでチームをつくって大会に参加する方もいる。社会人のコミュニケーションを媒介するものとしてフットサルが役立てばよい。参加者同士の会話が弾むようにスタッフも意識してサポートしている。

VIDAはスペイン語で命や生活といった意味。フットサル場の運営は、地域と関係を結んだ息の長いビジネスだと考えている。立地や使用料の競争に巻き込まれないよう、個サルなどを通じて顧客一人ひとりとの関係を深めていきたい。



SUGURU SASAKI

1975年生まれ。富山第一高校サッカー部で全国大会出場。名古屋などで会社勤めを経て05年に独立。06年、企画会社「プランニングネットワーク」を設立した。「越中富山企画塾」などを運営。

■今後の目標を聞かせてほしい。

今春、兵庫県姫路市でフットサル場の運営を引き継いだ。将来的には、全国各地でフットサル場の経営を支援していく。思いが先立つビジネスであり、地域の活性化や子どもの育成を目指している人たちとジョイントし、運営ノウハウなどビジネス面でお手伝いしたい。研修カリキュラムなどの作成も始めている。Jリーガーが引退後に地元へ戻ってフットサルなどに関わることができれば、サッカー界全体の底上げにもつながる。プロとして指導できる環境を整えたい。サッカーにポジションがあるように、わたしたちはビジネスをプロデュースする側として黒子の役目を果たしたい。

■これからスポーツへの期待や可能性について考え方を聞かせてほしい。

フットサルはサッカーの技術を磨くにもよい。また、サッカーは頭を使ってやるスポーツだと教え込まれてきたが、フットサルでは一層それが強く求められる。わたし自身、サッカーをやってきて本当によかったですと思っている。礼儀や人間関係はもちろん、自分とまわりの状況を判断して連携することや、組織内で意識を共有することの大切さ、事象の本質を考える姿勢とか、サッカーを通じて学んだことが自分の軸になっている。子どもたちにも伝えていきたい。

今後は教育がより重要になると感じている。世界のスタンダードに並ぶためには、個性を伸ばし、知識を自ら咀嚼して行動する「知恵」を身につけることが大事。ビジネスも分岐点の連続で、走りながら考え、考えながら走ることが求められる。自分で状況を判断して行動することを学べるのがスポーツだと思うので、教育分野に活用できれば面白い。

WEB事業 **すばまぐ@富山** スタート!!

メールマガジンを毎週配信／コミュニティサイトも開設

富山スポーツコミュニケーションズは09年6月から、スポーツを知り、楽しむためのWEB事業「すばまぐ@富山」をスタートしました。メールマガジンとして専門家によるコラムを毎週配信しています。また、読者登録した会員が互いに交流し、メールマガのバックナンバーも閲覧できるコミュニティサイトを開設しました。ぜひ、ご利用ください。

■楽しくて役立つ情報を届ける

すばまぐ@富山では、インターネットを活用して、スポーツを知り、語り、仲間をつくることを目指します。

メールマガでは、スポーツをしている子供たちの家族やプロチームのファン、地域クラブの関係者らスポーツを愛するさまざまな方を対象に、楽しく、役立つ情報を提供します。

これまでの配信ラインアップは、

- △ドリーム・カム・トゥルー～プロスポーツのある街（BCリーグ 富山サンダーバーズ社長・永森茂氏）
- （Jリーグ カターレ富山社長・清原邦彦氏）
- （bjリーグ 富山グラウジーズ取締役チーム統括・黒田祐氏＝9月開始）
- △子どものためのスポーツ栄養学（富山短期大学教授・桑守豊美氏）
- △スポーツとは（大阪体育大学教授・富山浩三氏）
- △カルチョの本場を歩く（ヨーロッパサッカー協会公認コーチ・河村優氏）

今後も執筆者やテーマを検討し、内容の充実に努めていきます。

■スポーツ好きが集うサイトへ

コミュニティサイトは、メールマガ会員向けのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)です。日記やコミュニティ、プロフィルなどの各種機能で会員同士の意見交換や情報発信などコミュニケーションが可能です。また、メールマガの過去記事をすべて収録し、閲覧できるようにしています。



この事業はスポーツ振興くじの助成を
受けて実施しています。

スポーツ仲間集まれ!!

簡単登録!! 下のQRコードよりアドレス
を読み取って、そのまま送信!!

または、p-spomag@d.blayn.jp
にメール! (パソコンからでも登録できます。)

メールアドレスを入力



空メール送信

本人確認メール

仮登録

▼ 最新メールマガ配信[無料](翌月曜日)
郵便振込(※仮登録後2週間以内)

会費振込確認

★会員登録★

▼ メルマガ配信(毎週月曜日)

コミュニティサイト招待メール

▼ ★コミュニティサイト登録★



<http://sns.spomag.net>

■totoからの助成を活用

すばまぐ@富山は、事業開始に当たってスポーツ振興くじ(toto)からの助成を受けました。受益者負担による事業の継続と発展を目指し、会費制(12ヶ月3,300円、6ヶ月1,800円)としました。スポーツが大好きなみなさまに参加いただき、新しい事業をともに作り上げたいと考えています。

※ドメイン指定受信をされている方は、spomag.netの
ドメイン登録をお願いします。

※QRコードは、対応の機種対象です。パケット通信料は
お客様のご負担になります。

TSCパンフレットができました!

私たちがスポーツを通じて社会貢献活動をさせていただいている理由をメッセージにし、方針や活動内容をしっかりとお伝えするため、パンフレットを作成いたしました。今後、多くの方々に配布させていただき、「スポーツの大切さ」を発信していきたいと思います。



TSC 2008 財務諸表

2008年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 平成 20年 4月 1日 至 平成 21年 3月 31日 (単位:円)

経常収支の部		正味財産増減の部	
[経 常 収 入]	3,369,730	[正味財産増加の部]	
[事 業 費]	2,818,722	当 期 収 支 差 額△38,930	
[管 理 費]	589,938	正味財産増加の部 計	0
経 常 収 支 差 額	△38,930		
<その他の資金収支の部>		[正味財産減少の部]	
[その他の資金収支差額]	0	正味財産減少の部 計	38,930
当 期 収 支 差 額	△38,930	当 期 正味財産増加額△38,930	
前 期 繰 越 収 支 差 額	528,581	前 期 繰 越 正味財産額	558,581
次 期 繰 越 収 支 差 額	498,651	当 期 正味財産合計	519,651

2008年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 21年 3月 31日 現 在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流動資産]		[流動負債]	
(現金・預金)		未 払 金	71,972
普 通 預 金	645,123	前 受 金	105,500
現金・預金計	645,123	流動負債計	177,472
(売 上 債 権)		負 債 の 部 合 計	177,472
未 収 金	52,000	正味財産の部	
売 上 債 権 計	52,000	[正味財産]	519,651
流動資産合計	697,123	(うち当期正味財産増加額)	△38,930
資産の部合計	697,123	正味財産 計	519,651
		正味財産の部合計	519,651
		負債・正味財産の部合計	697,123

Report

本場仕込みのトレーニングを楽しむ

第2回イタリアサッカークリニックを開催

富山スポーツコミュニケーションズは6月22日、富山県総合運動公園屋内グラウンドで「第2回イタリアサッカークリニックinとやま2009」を開きました。前回(06年12月)に続き、ヨーロッパサッカー協会公認B級コーチの河村優さんが講師を務め、参加した小学生33人が楽しくトレーニングしました。

河村さんはイタリアを中心にヨーロッパで指導法を学び、FCユヴェントスサッカースクールでもコーチ歴があります。現在は姫路獨協大学男子サッカー部コーチ・同女子監督を務め、メールマガジン「すぽまぐ@富山」でもコラムを執筆いただいております。同クリニックを終えての河村さんの感想を紹介します。



わかりやすく説明する河村コーチ

【ゴールを目指してエンジョイ】 河村 優

今回は前回よりも増して楽しくできました。私自身がクリニックに慣れさせもありますが、富山スポーツコミュニケーションズのコーチと一緒に喜一憂できたからだと考えています。

昨今、子供たちと一緒に熱くなれない冷静なコーチが増えている気がします。冷めた現代っ子の雰囲気に負けてしまい、ゴールや失点に対して喜怒哀楽することになんの感情も抱かなくなったわけではなく、そんな子供たちをどう熱く盛り上げるかに悩んでいる指導者の方々が日本中に数多くいると思います。

しかしこの日はちがいました!!! 子供たちと一緒に楽しく、競争形式を

エンジョイする若いコーチがたくさんいたおかげで私のクリニックもスムーズにいきました。また最後は“世界クラブ選手権”で地元カターレが優勝しました。このゲーム形式のシミュレーションはJリーグ百年構想にちなんで、地元を盛り上げるきっかけづくりになればと一瞬のひらめきで考えました。実はカターレ富山びいきにレフリーが笛を吹いたかもしれません(笑)。

もちろん、前回のクリニックでも掲げたテーマである【ゴールへ】というサッカーの基本的な目的をしっかりトレーニングできたことが、盛り上がった一番の要因でもあります。

隣のやつに負けたら悔しい。シュートを決めたい。ゴール決めてガッツポーズするぞ。etc などのトレーニングにも競争形式を取り入れました。子供たちが躍動感あふれるプレイで、自分たちでエンジョイしている姿がそこにありました。

1回のクリニックでテクニックが上達したかどうかわかりませんが、スポーツの原点である楽しさ、喜びを感じてもらい、第2の柳沢選手が富山から誕生するよういろんなエッセンスを若いコーチにも感じてもらえたと思います。ぜひ、これをきっかけに子供たちがますますサッカーを好きになり、若いコーチたちがエネルギーを感じてサッカー熱が富山、いや北陸から発信されることを祈っております。

最後になりましたが、今回イタリアサッカークリニックを依頼してくれた富山スポーツコミュニケーションズ、そして協力していただいた皆様に感謝すると共に、富山のサッカーが発展していくことを心から応援したいと思います。本当にありがとうございました。



大勢参加したクリニック

Report

スポーツを支えるということ

【日本クラブユースU18大会の運営を体験して】

近藤寛朗

TSCコーチの近藤寛朗さん(富山大学4年)が7月、日本クラブユースサッカー選手権U-18大会の運営に参加しました。体験を通じて感じたことなどをレポートしてもらいます。



大会運営に参加した富山大学4年の近藤さんと高島さん

7月25日から28日の3日間、日本クラブユースサッカー連盟のスタッフとして、福島県Jヴィレッジで、adidas CUP 2009日本クラブユースサッカー選手権U-18大会の運営に参加しました。主な仕事は会場での試合運営で、会場設営の指示やキックオフ・選手交代時のメンバーチェック、結果報告などを行いました。普段から大学生の大会の運営に関わっていますが、今回は24チームが参加する全国レベルの大会ということもあり、いつもとは違う緊張感がありました。より細かい、心遣いのある運営が求められました。

大会運営は、非常に地味な作業です。それがしっかりと協力のもとで行われれば試合はスムーズに進みます。逆に、少しの油断が大きなミスにつながりかねないこともあります。この点は、ゲームでのプレーによく似ていると感じました。リスペクトマインドを持って協力すること、注意深く油断しないことなどは、プレーと共に通しています。こういった能力を、スポーツを通して育むことができれば、大会を運営する側に立った時、さらには社会に出た時にも適応することができるのではないかと思いました。

全国大会に出場した子どもたちは、短い期間ではありますが、自分たちの力で共同生活を行います。礼儀や協調性など、そのような状況で育まれる力も

多いと思います。そして、そのような学びの機会は、スポーツを支える人たちによって提供されています。今回の運営体験を通して、スポーツを支えることについて改めて考えさせられました。

「スポーツから何かを得た人は、スポーツを通して、その経験や学びを子どもたちや周りの人々に与えなければならない」という話を聞いたことがあります。スポーツを支えるということは、まさにそれを成すことです。私も、スポーツから多くのことを学んでいます。今回の経験を忘れず、今後のTSCの活動に生かしていきたいです。そして、多くの出会い、気づきを与えてくれたスポーツに感謝します。



試合記録を管理・速報するゴールノートシステム



大会本部の様子

U-12スクール募集中!

*JFAコーチライセンスを取得した大学生や若手コーチが「育てる」という観点でスクーリングします。



U-18スクール募集中!

*中学生と高校生年代が異世代交流することで体感できます。また、U18リーグや社会人チームとのゲームを楽しめます。



参加申込：氏名・電話番号・参加希望コースを添え直接TSCへお申ください。
携帯090-5176-0075 TEL/FAX 439-9277

編集後記

2016年のオリンピック開催地がブラジルのリオデジャネイロに決まりました。「南米初」を目指す訴えには強さがあり、東京の落選は残念でしたが納得できる結果でした。開催には経済効果に対する期待が少なからずあっても、最終選考の場では、鳩山首相やオバマ大統領ら各国のトップが、世界平和や平等、環境保全といったスポーツの祭典に託す理念を真正面から語って招致を競いました。スポーツの力をあらためて考える機会になりました。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

事務局

〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203

Tel.Fax.076-439-9277

E-mail (pc) saeaki@toyama-sc.com

URL <http://www.toyama-sc.com>

Vol.7 発行日：2009年10月1日

[発行日] 年3回

[発行] NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

[発行人] 佐伯仁史

[編集人] 赤壁逸郎

クラブライフが心からだと暮らしを変える